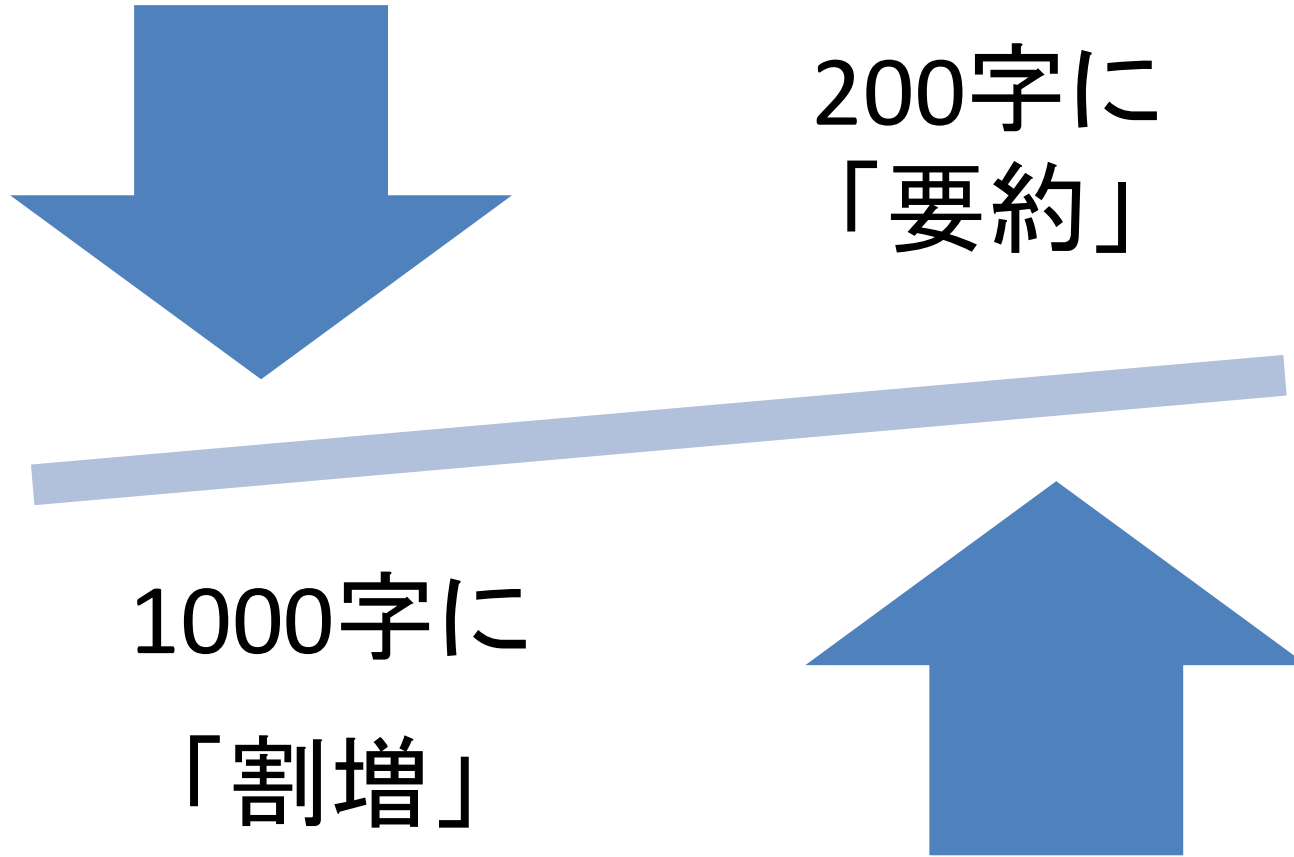


「伝える文章」の形式(2) 1000字の文章を書く

論理的思考 第11回

どちらも可能な文章を作る



文章は論理的な作業である。

- タイムラインではなくて、独立しているモノなので、みずから前後のつながりや文章の筋道を明確にする文脈を作ることが必要。

- ... 「型」と「流れ」

実用文

読み手に理解してもらい
動いてもらうことを目的
「才能でなく、練習」

教える

- * テキスト
- * マニュアル

依頼する

- * 依頼文
- * 勧誘文

説明する

- * 報告書
- * 連絡文
- * レポート
- * 紹介文
- * 推薦文
- * ブログ
- * 日記
- * 自己PR文
- * エントリーシート

提案する

- * 企画書
- * 提案書

人に伝わって、人を動かすための文章

「伝わる文章」の3つの性質

- 1 誰に向けて、何を書いているかが明確
- 2 論理的に書かれている
- 3 わかりやすい

- 手順は実に簡単である。まずいくつかの山にまとめる。もちろん量によっては1つでも構わない。設備がその場になくときには次の段階として別の場所に行くことになる。沢山になりすぎないことが大切である。つまり、一度にあまりたくさん量をこなすくらいなら、少なめの量をこなす方がいい。最初は手順は複雑に思えるかもしれない。でもそれは、すぐに生活の単なる一側面にすぎなくなるだろう。比較的近い将来にこの仕事が無くなるという見通しはない。それは誰にもわからない。手順が完了すると、またいくつかの山にまとめる。それから適切な場所に入れる。やがてそれらはもう一度使われる。このようなサイクルを繰り返さなければならない。でもこれは生活の一部なのである。

(犬塚、2018 14歳からの読解教室 笠間書院より)

読む人は「トップダウン」がわかりやすい

読み手が持っている知識



タイトル・目次・まとめ・キーワード

文字→単語→文→文のつながり→文章全体

スッキリした文章を書くルール

● 一つの単語は一つの意味

「眠り」と「寝る」の違い

● 一つの文章に一つの事柄

「が～」を使わず接続詞

● 一つの段落に一つの話題

5段落の基本の型

序論 250字	本論へつなげるための導入部分。 この文章でもっとも伝えたいこと(コンセプト)を書く。意図、概略、問題提起、意見や主張など。	
本論	序論のコンセプトを支えるための詳細(説明)を本論(3つの各論)で書く。	
	各論1 200字	伝えたいことの詳細1を書く。そのあとに詳細1に対する、理由、証拠、事実、事例などを続ける。
	各論2 200字	伝えたいことの詳細2を書く。そのあとに詳細2に対する、理由、証拠、事実、事例などを続ける。
各論3 200字	伝えたいことの詳細3を書く。そのあとに詳細3に対する、理由、証拠、事実、事例などを続ける。	
結論 150字	ダメ押しで力強いまとめ。	

全体で1000字

企画・提案：相手に相談をするとき

序論

- このプロジェクトの趣旨・どんな企画提案なのか伝える

本論

- **目的**を書く：何を達成しようとしているか
- **構造**を書く：構成員やチーム、組織など
- **プロセス**を書く：進め方・期間・誰がどんなことをするか

結論

- 実施するメリットと再度協力の御願いを伝える

報告文・連絡文:「気持ち」や「感想」でない

序論

- 概略を書いて最後に「以下に要点をまとめる」で続ける

本論

- 一つ目の要点:
 - 二つ目の要点:
 - 三つ目の要点:
- } それぞれ内容や出来事をまとめて報告

結論

- 全体のまとめを書く（内容は目的によって変わる）

謝罪文の型について

- 相手はテーマを知っているのですぐに内容へ
- 序論にお詫び、結論で教訓を踏まえる。
- 3つの本論には首尾一貫性を作る。